

今月に入って大阪市内で2度も雪が積もりました。インフルエンザが流行っています。くれぐれもご注意ください。風邪の予防には、石鹸で手洗い・うがい  
がゼッタイです。効きます。花粉症にも良いようです。

春まであと一月、ゲンキに乗り切りましょう。現在会員登録数 385 人さま。  
ご愛読いただきありがとうございます。次号は3月22日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント その6

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● アジアの絵本シンポジウム 参加者を募集しています

「絵本は国境を越えるー中国語圏の絵本の現在」

現在、中国語圏の国や地域では絵本出版状況に目を見張るものがあり、その  
中で日本の絵本も多く出版されています。この状況の立役者でもある高 明美  
さんをお迎えして、現状についてお聞きします。

1. 日 時：平成23年3月13日（日）午後2時～4時
2. 場 所：大阪市西区民センター 第4会議室
3. 講 師：高 明美（台湾の絵本編集者・翻訳者）  
聞き手：成實 朋子（中国児童文学研究者・大阪教育大学准教授）  
三宅 興子（絵本研究者・当財団理事長）
4. 対 象：一般、読書ボランティアの方など
5. 定 員：50名（先着順）
6. 参加費：一人 1,000円
7. 主 催：財団法人 大阪国際児童文学館  
後 援：アジア児童文学日本センター、日中児童文学美術交流センター  
協 賛：関西電力(株)、近畿日本鉄道(株)、サントリーホールディングス(株)  
武田薬品工業(株)、パナソニック(株)、阪急電鉄(株)、  
(株)富士通東北システムズ、(株)富士通マーケティング、  
ムサシ・アイ・テクノ(株)

● 第27回ニッサン童話と絵本のグランプリ 受賞作品原画の展示

1. 日時：(1) 平成23年3月15日(火)～21日(月・祝)  
(2) 平成23年3月8日(火)～31日(木)  
\*ただし、図書館の開館日時
2. 場所：(1) 大阪府立中央図書館 エントランス  
(2) 大阪府立中央図書館 国際児童文学館展示コーナー
3. 入場料：無料

● 寄付金を募集しています

当財団では、子ども文化の振興をめざして、子どもと本をつなぐ活動を進めています。さまざまな講座・講演会の開催など、次代を担う子どもたちの豊かな読書活動の支援のために、もっともっと充実させていきたいと考えています。そのため、当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『聖夜』 佐藤多佳子/著 文藝春秋 2010年12月

あらすじ：教会のある私立高校の3年生、鳴海一哉はオルガン部に所属。母は元ピアニスト、父は牧師という環境だが、母はドイツ人男性と家を去ってしまい、鳴海は母と母に対する父の偽善的な対応が許せない。文化祭のコンサートのために難曲メシアンを練習するが、自分の音楽の才能や将来、両親のことを悩み、本番をすっぽかす。オルガン部での友情や恋愛も描かれる青春小説。

対象年齢：中学生以上

O：日本の作品を取り上げたいとずっと思ってきました。現在のヤングアダルト作品の要素がぎゅーとつまった美しい作品です。

Y：梨屋アリエや森絵都の作品など、傷つきやすい主人公の感情のひだを丁寧に描いている作品がたくさん出版されていますね。

O：装幀もきれいで、舞台も学校、家庭を中心として限られた生活空間でのストーリーという点も共通していると思います。

Y：特にクラブ活動、それも文化部を描いた作品は最近の流行です。佐藤多佳子さんご自身も、陸上部を題材にした青春小説『一瞬の風になれ』(講談社 2006年)で第4回本屋大賞を受賞して一躍人気が高まりました。そして、『聖夜』の前に School and Music シリーズとして4つの短編が

収録された『第二音楽室』（文藝春秋 2010年）という作品を書かれています。

○：これらの作品に共通しているのは、「きれい」に描かれていることです。日本でなじみの少ないパイプオルガンは主人公の繊細さを引き立てていますし、演奏に関する描写も繊細です。青木と天野というタイプの異なる二人の少女と鳴海の関係も洗練されています。

Y：鳴海も悩みはするものの、音楽の才能は天才的で、異性にもて、家庭は裕福で、家族が崩壊しているといっても結末では両親から愛されていることが確認されます。

○：ストーリーも巧みで本当に巧いなあ思うと同時に、少し物足りなさを感じてしまうのも正直な感想です。

Y：私もこれ以上ドロドロすると読者がついてこないのではないかと思う反面、天才の苦悩ってこんなものじゃないかとか、家族内でも徹底的にぶつかり合わないなと思ったりしました。

○：現在の若者のコミュニケーションのありようとも関わる問題として、今後とも考えていきたい課題ですね。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント その6

\*\*\*\*\*

### 「絵本の選び方(2) 絵本とは」

絵本とは、絵とことばの調和によって一つの物語世界が構成されている作品のことを言います。（文字なし絵本でも、少なくともタイトルは文字で表わされています。）

たとえば、二人の人物が山の中で向かい合っている絵があれば、その絵から、どんな山か、どんな人物か、どんな表情をしているかなどを読み取ることができます。そして、そこに「久しぶり」という会話が書かれると、二人は知り合いだったことがわかるし、「私は〇〇と申します」という会話が入ると初対面であることがわかります。このように、絵と文の両方を読んで初めて楽しめるメディアであるため、文を誰かに読んでもらいながら絵を見ると、両方を一度に楽しむことができます。

絵本はまた、表紙で始まって表紙で終わるというように作られています。表紙に描かれた絵とタイトルが、本を読む前の読者に物語世界を想像させ、視点人物を示唆すると同時に、読み終わった後、表紙を見れば、その作品全体を彷彿とさせる、つまり作品全体を象徴的に表現する役割を担っています。

絵本の3番目の特徴は、ページをめくることによって、物語が展開するということです。ページをめくると一瞬後だったり、3年後だったり、空間が移動していたりします。すると、読者はページとページの間で起こったことを想像します。マンガのばあいにはコマとコマの間を読んだり、文章のばあいに行間や節や章の間を読んだりすると同様に、絵本の場合はページのめくりが重要な役割を

果たすのです。(Y)

\*次号では「絵本の選び方(3) 古典的な絵本と新しい絵本」をテーマとする予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。

\*\*\*\*\*

### 《3》 サイト紹介 ―子どもの本をリサーチする―

\*\*\*\*\*

資料所在データベース第6回目。今回ご紹介するのは、以下のサイトです。  
東京都立図書館 <http://catalog.library.metro.tokyo.jp/>

都立図書館といえば、明治41(1908)年に開館した東京市立日比谷図書館が有名です。230万冊の豊富な資料には児童書も多く含まれており、現在は立川市にある都立多摩図書館に児童書が所蔵されています。

このサイトの特色は、何と言っても子どもの本の内容目次が検索できることです。かつて、都立日比谷図書館から刊行された『東京都立日比谷図書館児童図書目録』(1992年刊)には、主として戦後の子どもの本の収録作品や目次が掲載され、タイトルや著者名索引が付されていました。

この目録には、何度レファレンスで助けられたことでしょうか。例えば『アンデルセン童話集』や、『越後の昔話』といった図書の目次(「みにくいあひるの子」や「かさこじぞう」といった個別の作品名)、あるいは『こどものとも』や『キンダーおはなしえほん』といった雑誌の各巻タイトルが入力されているので、収録作品名で検索することができます。

そして、この目録を電子化したのがこのサイトです。通常、内容目次レベルまで検索できるサイトはなく、その意味で貴重です。個別の作品を調べたいときなど、威力を発揮します。ぜひ一度、検索してみてください。(J)

※次号は、資料所在データベース篇〈その7〉の予定です。

\*\*\*\*\*

### 《4》 行って来ました!

\*\*\*\*\*

2月5日(土)に開催した当財団主催の読書会「若おかみシリーズ人気の秘密をさぐる―著者令丈ヒロ子さんをお迎えして―」に参加しました。

課題本は、子どもたちに大人気の若おかみシリーズの第1巻『若おかみは小学生! 花の湯温泉ストーリー』(講談社青い鳥文庫2003年)。両親を亡くした主人公おっこが、祖母の旅館にひきとられ、若おかみとして奮闘するお話で、現在15巻まで発行されています。

口の字に配した座席に24人の参加者が座り、少し緊張した雰囲気を読書会が始まりました。最初に令丈さんから、おっこちゃんの名前の由来や、舞台を温泉旅館にした理由など「若おかみ」誕生にまつわる話をお聞きしました。



先週は、バレンタインデーでした。いつ頃から流行り出したのか、すっかり定着しましたね。若い頃は「虫歯になりそう！」などとうそぶきながら、義理チョコの数を小学生の息子と競ったりしたのですが・・・。  
マイブーム 過ぎて生保の チョコモなし (同情無用A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---